

2021年 オンライン免状授与式 2021年2月7日



初のオンラインで「免状授与式」を開催しました。昇級者のご紹介、謝辞、家元挨拶、そして新師範の代表による水墨花点前の披露をおこなって頂きました。

また、オンラインならではの取り組みとして、ドイツ支部・上海支部とつながり、それぞれ活動報告をして頂きました。コロナ禍で皆さんで集まらない状況が続きますが、しばらくは個人や少人数でできる研鑽につとめて参りたいと思います。

新師範 興津 理松

と出会いました。初めて水墨花点前を拝見した時の感動は今でも覚えています。お花を生ける準備から和歌の朗詠に合わせたのパフォーマンス、後片付けまでを一連の所作として披露する水墨花点前は当然これまで見た事もなく、この流派

にもない素晴らしいものでした。感動したと同時に私もこのお点前をしたいと思いました。当初はいくつかしている習い事の一つでしたが、回数を重ねていくうちに考えが変わっていききました。習う事よりも伝える事の方が大事である事、人に

変に感謝しております。

そして、これからは家元、副家元にお教えいただきましたものを伝承していく者として、まだまだ未熟者ではありますが、更に精進して参ります。今後ともご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

新師範 竹内 理羽

お稽古を始めて最初の頃は、「ただ綺麗にお花を生けよう」、「枝の形を自分が思い描く通りに整えよう」という表面的な部分に重きを置いて生花と向き合っておりましたが、月日が経つにつれ、自分の価値観にも変化が訪れました。

「生けて終わりではなく、生けたお花が時間の流れとともにどのように変化していくかを意識すること」や、「お花は生きているが故に、常に変化し続けている」と、生花は再現性のない一期一会のようなもの、「同じ



花材・型でも精神状態に因って見え方が大きく変わる生花は、内面を映し出す鏡のようなもの」ということが人生に通ずる部分でもあることに気付いてから、お稽古に向き合う姿勢も自然と変わっていったことを覚えていきます。

お花を通して自分自身と対話し、生花という形でそれを表現することや、自身の感性を人に伝えることの楽しさや難しさという、芸術の本質に触れることができたのは、偏に家元、副家元のご指導あつてのこと

新師範 周 理思

お稽古を通していけばなの勉強だけではなく、人間的な成長をさせてくださいました。先生の温かみと謙虚さは本当に深く尊敬申し上げます。宮本理峰先生は本当に菩薩の様な先生で、私は先生と出会えて本当に幸せでした。

最初は生け花を習いに来たのに、最後は花があることを忘れてしまう程でした。これからの私の人生に活かすことがで



きると思います。

先生からいただいた二つの詩「伝統の／教え時代に／継ぎつつ／万葉と薫れ／水墨の花」「不思議なる／花の結びし／この縁／道を極めつ／共に歩まむ」に感謝申し上げます。



新師範 興津 理松 竹内 理羽

伝える事により自分自身が学ぶ事が多い事、同時にそれは大変難しい事でもあると気付きました。

中国、台湾、韓国などの海外遠征に同行させていただき、とても貴重な経験をさせて頂きました。また、2019年12月には中国上海市にて水墨花点前をご披露させて頂きました。私が上海へ移住したこともあり、李倩先生と交流を深めて参りました。

これまでは家元先生・副家元先生と一緒にでしたが、今回は初めて私主導でお点前をさせて頂く機会となりました。上海に移住してまだ数ヶ月と日が浅く、片言の英語と中国語のコミュニケーションでしたが、例えば共通の言語でなくても同じ花道の道を歩む同士として通じ合える、そう強く感じました。これまでの海外の経験を活かし、更に国際交流の輪を広げていきます。

新師範による水墨花点前の披露の他、小野華那子さんによるアルバの演奏、福引大会など盛りだくさんの楽しい会となりました。

今回は令和2年度新師範になられた6名による謝辞を掲載します。



林 理湧

自分がかかわってきた芸能のひとつに俳諧がある。俳諧は近世日本において松尾芭蕉が完成した文芸の形態でありその一環として正式俳諧という行事がある。江戸期の伝統を受け継いだもので様々な所作、立花、聞香、吟詠などを幾人かの出演者が演じるものである。立花の役割をするものを「花司かし」という。宗匠・連衆とよばれる参加者の見ている座敷の中央にすすみ出て着座し、据え置いた三宝の花瓶にその時々の季節の花を生けてそれを芭蕉の像に捧げるものである。

ある時、所属する俳諧の会からこの役を承ったのだが、それまで花を生けるなど



私ははじめてのお点前会で聞いた『咲き薫れ』の「花の咲かない国あらじ」という句に感銘を受け、実際に詠ったり、聞く度に「たぐさんの人へ、世界へ、生け花の魅力を広めて行きたい」という想いが強くなり、雅号に大きな海という意味の「洋」を入れました。これからは、私が教えてもらった生け花の魅力や素晴らしさを、古流東洋会の皆さまと一緒に、広めていきたいです。子供教室の運営も、楽しみです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



水野 理洋

私の人生は、2016年に副家元先生と出会ったことで、ガラリと変わりました。日本文化と縁がなかった私が、生け花を学び、着物でお点前を披露する楽しさを味わい、多くの方と「花」を通じて縁を結ぶことが出来ました。

大橋 理梗



多忙な日々におわれ、お稽古に通えない時期がありました。そんな私に家元先生は、生け花を鑑賞することを勧められました。花をみつめ、花を通していった方の思いを想像する、相手の思いに心を寄せる。拝見の美しい作法を教えてください、人間的に大きな成長をすることができました。それもとえに家元先生のご指導のおかげと感謝いたしております。

今後は、新師範一同、古流東洋会の継承者の一員として励んで参る決意でございます。ありがとうございました。

山隅 理悠



サウジアラビアがつかないでくれたご縁で出会った古流東洋会水墨花点前。和歌の朗詠をしながら花を生けるという独特のスタイルもさることながら、元々美しい「植物」をさらに美しく魅せる魔法の様な動きに憧れ、私ももともと花材の魅力を引き出せる人になりたいと思いました。

宮里 理翠

時間の流れが速く感じられる現代社会。お花を通して、心の豊かさやゆとりを感じていただきたいと思いますし、日本の文化を海外にももっとご紹介したいと思っています。

まだまだ未熟者ではありますが、更に精進して参ります。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。



生花口決抄に『花生けむと思ふ時は心静けく気平かに』とございましたが、お花を生ける時には正に無心になる事が大切なのだと、改めて思うようになりました。入門してから家元先生には、お花以上に人間として、日本人として大切な嗜みも教えていただきました。これから、生徒さんにいけばなを伝授するにあたり、人間的にもひとまわり、ふたまわりも大きくなり、常に学ぶ姿勢を忘れずに謙虚な対応の出来る講師になれるよう精進していきたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしくご指導をお願いいたします。

長野 理藍

私は着物スタイリストとして結婚式や成人式での着付けや、それを教える着物講師の仕事をしております。その中で仕事の幅を広げる為に何か他に出来る事はないかと悩んでいた頃、副家元である宮本理城先生

してまだ数ヶ月と日が浅く、片言の英語と中国語のコミュニケーションでしたが、例えば共通の言語でなくても同じ花道の道を歩む同士として通じ合える、そう強く感じました。これまでの海外の経験を活かし、更に国際交流の輪を広げていきます。